

救急看護認定看護師の活動

山崎 直人 齊藤 徳子

日本医科大学付属病院看護部

The Role of the Certified Nurse in Emergency Nursing

Naoto Yamazaki and Noriko Saito

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2019; 15: 134-135)

はじめに

救急看護とは「突発的な外傷，急性疾患，慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって，救急処置が必要な対象に実施される看護活動．救急処置を中心とした初療段階での看護実践で，場所，疾患，臓器，対象の発達段階，診療科，重症度を問うことはない．主に，救急外来や救命救急センターなどの救急医療施設での看護をさすが，院内急変，病院前救護，災害救急医療，学校保健，産業看護などの場にも救急看護実践がある」と示されている．（医学書院，看護大事典（第2版）より）

救急看護認定看護師とは

救急看護認定看護師は，皮膚・排泄ケア認定看護師とともに公益社団法人日本看護協会にて認定制度の発足された1995年11月に特定され，1997年6月に認定が開始されている．救急看護認定看護師の役割としては，救急医療現場における病態に応じた迅速な救命技術，トリアージの実施や災害時における急性期の医療ニーズに対するケア，危機的状況にある患者・家族への早期的介入及び支援がある．また，高度先進医療を担う救急医療ニーズにこたえて，救命技術から危機的状況にある患者及び家族への精神面の看護に至る幅

広い救急看護領域の知識や技術に熟達し，的確な判断に基づいた確実な救命技術の実践や指導が求められている．

当院での救急看護認定看護師の活動

現在，日本医科大学付属病院には，5名の救急看護認定看護師が在籍している．救急・総合診療センターに1名，高度救命救急センターに2名，他の2名もそれぞれの部署で活動している．

主に救急・総合診療センターでは救急外来患者の緊急度判定のためのトリアージ実践，高度救命救急センターでは，初療室における初療初期看護の実践と入院患者家族を含む看護の提供を日々行っている．院内蘇生教育では，新人オリエンテーションとして救急看護の講義や心肺蘇生フォーラムの中でBLS・ICLS・ACLSなどを看護師だけでなく，医師や研修医に加えて，医療事務などの医療スタッフへの指導を行っている．また，院内の各部署に設置されている救急カートの物品管理，整備を行っている．院外活動として，看護学校や大学，ナースプラザなどでの救命技術や災害看護に関する講義，シミュレーションを通してわかりやすく教育を行っている．

今までには，一般社団法人日本救急医学会の救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会委員長である横田裕行教授（日本医科大学付属病院 高度救

命救急センター部長)の指導のもと「高度救命救急センターにおける終末期医療に関する看護師としての関わり」として入院患者家族との関わりを振り返り救命医学会関東地方会にて発表させていただいた。他にも「脳死下臓器提供における手術室対応」として救命センター内で臓器提供のための手術を行う際の準備や手順、一連の流れをまとめている。

また、院内教育のスキルアップコースの一環として、一般病棟のスタッフに対し、急変時の対応に関する講義、実践の教育指導を行っている。急変が起こった病棟を優先的に調整し、急変時の場面や実際に起こった急変の事例に基づき内容を決定している。特に、急変前の兆候や急変時の気づき、エマージェンシーコールを含むその後の対応をリーダー看護師、スタッフ看護師それぞれに目標、役割分担をし、医師が到着するまでのBLSを中心とした内容で行っている。

今後の課題

今後の課題として、現在行っているスキルアップコースでの急変時対応を主に、病棟を含む院内の急変時の対応に関する教育を継続し、急変対応の知識、技術の普及に努めていきたいと考えている。また、RRS、エマージェンシーコール時の発見から一次、二次救命処置を医師や他職種との連携を行いながら、院内の急変時に迅速な対応が行えるように整備し、院内の急変による死亡件数の減少の一助となるよう継続的に活動を行なっていきたいと考えている。最後に、救急看護認定看護師だけでなく他分野の認定看護師や専門看護師と協働しながら社会のニーズに合わせた救急医療を展開するように努めていきたいと考えている。

(受付：2019年3月11日)

(受理：2019年6月3日)